

障害者権利条約の批准や改正障害者基本法の趣旨等から共生社会の実現のために障害者理解の推進が求められているところであり、障害のある子供と障害のない子供の交流及び共同学習の推進が必要である。

また、**2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機としたユニバーサルデザイン2020の中間とりまとめにおいては、障害者理解(心のバリアフリー)の重要性が示されており、障害のある子供と障害のない子供の交流及び共同学習を進めることで、障害者理解(心のバリアフリー)を推進し、共生社会の実現を目指す。**

さらに、本事業は、specialプロジェクト2020の取組も推進するものである。

障害のある子供とない子供がスポーツ、文化・芸術活動を通し、障害者理解の推進や交流及び共同学習のより一層の充実を図る。

### ■スポーツによる交流及び共同学習

#### ①障害者スポーツ等の体験学習

共に障害者スポーツによる体験・交流等を通じ、障害者理解を推進する。

#### ②障害者アスリート等との交流

障害者アスリートや義肢装具などの用具に携わる専門家を学校等に招き、交流する機会を設けるほか、障害者を支える仕事に触れることを通じ、障害に対する理解を深めるとともに、社会参加の在り方を考察する。

### ■文化・芸術による交流及び共同学習

#### ①文化・芸術の体験学習

共に合奏する等の音楽活動や共に絵を描く等の造形活動など文化・芸術による体験・交流等を通じ、障害者理解を推進する。

#### ②障害のある芸術家等との交流

障害のある芸術家、演奏家等を学校等に招き、交流する機会を設け障害者理解を推進する。

※モデル地域の設定(以下のいずれかを主たる研究事項とする)

①特別支援学校と幼、小・中・高等学校等との交流及び共同学習

②特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習

※事業実施に当たっての留意点

・モデル地域においては、双方の学校における教育課程に位置付けたり、年間計画を作成したりするなど計画的・組織的な推進を図ること。

・小・中・高の児童生徒の発達の段階を踏まえ、障害者理解のねらいを明確にした上で、事業を実施すること。

・障害のある子供と障害のない子供それぞれの交流及び共同学習の評価の基準について検証すること。

※「交流及び共同学習」の機会については、体育、図工・美術、音楽等の教科や総合的な学習の時間等での取組が考えられる。

障害者アスリート



ブラインドサッカー



ボッチャ



ピアニスト



芸術家



合奏



造形活動



地域の取組を総合的に支援

(都道府県・市町村教育委員会・国立大学法人等)

委託

文部科学省

●委託先件数 26箇所

子供たちの社会性や豊かな人間性を育み、多様性を尊重する共生社会の実現を目指す

## 学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進

### 特別支援学校と中学校との交流及び共同学習（障害者スポーツ体験型・障害者アスリートとの交流型）

#### ■鳥取県教育委員会の取組

- ・視覚障害者のパラリンピック種目である「ゴールボール」をとおしての学校間交流
  - ・障害者アスリートについては、ゴールボール日本代表工藤力也選手を招き、講演と実技を通じた交流
- 対象：鳥取県立鳥取盲学校（中学部）と私立青翔開智中学校（一年生）

#### 〈交流の様子〉



#### （取組の成果）

##### 鳥取盲学校

- ・ゴールボールは交流校の生徒と互角に活動できるスポーツなので、自己肯定感の向上につながった。
- ・交流をとおして集団の中でも自分からかかわる力、表現する力が育ちつつある。

##### 青翔開智中学校

- ・視覚障害者の生活を豊かにするものに関する理解が深まり、普段の生活でも意識する様子が見られるようになった。
- ・ゴールボールをとおして鳥取盲学校の生徒の感覚の鋭さに感心するとともに、生徒が自分たちと同じように成長し、向上していく存在であると感じることができた。

#### （生徒の感想）

##### 鳥取盲学校

- ・青翔開智の生徒と活動するのは緊張したけど、楽しかった。

##### 青翔開智中学校

- 最初は目が見えない人との意思の疎通は難しいと思っていた。ゴールボールを通して目が見えない人の気持ちが少しわかった。

#### （教員の振り返りより）

##### 鳥取盲学校

- 全く知らない人と関わる経験ができたことによって、その後の現場実習での人との関わりの中では、緊張しながらも職員や利用者とは話することができた。

# 学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進

## 特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習（障害者スポーツ体験、障害者アスリートとの交流）

### ■宮崎県教育委員会の取組

・パラリンピック種目である「ボッチャ」とおとしての学校間交流

・障害者アスリートについては、大分県ボッチャ協会会長太田恵蔵氏、テレビ宮崎アナウンサー柳田哲志氏を講師として招く

対象：宮崎県立清武せいりゅう支援学校・赤江まつばら支援学校・みなみのかぜ支援学校、宮崎県立宮崎南高校、私立宮崎学園高等学校

### 【宮崎南高校新聞部発行新聞（図南飛翔）】

図南飛翔

平成27年12月4日（金）

# 障がいを超えてスポーツ交流

## 図南飛翔

### ボッチャを体験し、広める

11月24日（火）清武せいりゅう支援学校で「スポーツを通じたバリアフリー推進事業」として「ボッチャ」を通しての体験交流が行われた。「ボッチャ」とは障がい者スポーツ競技の一つである。清武せいりゅう支援学校4名、赤江まつばら支援学校7名、みなみのかぜ支援学校25名、宮崎学園高校13名そして本校から37名、計5校86名が参加した。

今号は、講師として参加された太田恵蔵さんと柳田哲志さん、そして交流会に参加した生徒に話を聞いた。また、本校新聞部員の「ボッチャ体験記」を載せた。

#### ボッチャのよき知ってもらいたい

##### ◇積極的な交流を！

太田恵蔵さん  
大分県ボッチャ協会の会長を務め、現在、ボッチャ協会副会長兼理事としてボッチャ競技の普及や啓発に努め

ている。自身も競技者として過去に日本ボッチャ選手権大会での優勝経験もある。太田さんに話を聞いた。

##### Q ボッチャの魅力は？

A 障がいの程度に応じて3対3で行うレクレーション型と1対1で行う競技型の2つのタイプに分か

て競技ができるころです。また、自分の思い通りにプレーでき、作戦を立てて何度も練り直すことができて楽しいところだと思えます。

##### Q 今回の交流会を通して高校生に伝えたいことは？

A 積極的に障がい者のイベントにサポーターやボランティアとして参加してほしいです。そして「ボッチャ」のような障がい者スポーツを通して心の交流もしてもらいたいです。

##### ◇ボッチャを広めたい

柳田哲志さん

1991年にテレビ宮崎に入社し、現在「じゃがじゃがサタデー」のアナウンサーとして活躍。その一方で、宮崎県ボッチャ協会の設立にも尽力し、現在副会長を務め、また自ら宮崎ボッチャクラブを設立し、競技の普及に努めている。柳田さん



指導される柳田さんと、競技を楽しむ支援学校と南高の生徒

発行元  
宮崎南高校  
新聞部  
発行日  
12月4日  
(金)

右から柳田さん、太田さん



に話を聞いた。

Q ポッチャの魅力は？

A 誰でもできるという  
ことだと思います。

また、戦術も無限に  
あるので、どのよう  
にして球を近づける  
か考えるのも面白い  
と思います。

Q ポッチャをこれから  
どのように普及して  
いきたいか？

A まず興味を持っても  
らって、実際にやつ  
てもらおうからだと

と思います。また、  
自分が県の代表選手  
になり、先頭に立つ  
て活動していくこと  
が一番だと思います。  
Q 今回の交流会を通し  
て高校生に伝えたい  
ことは？

A 障がい者のことをしっ  
かり理解し、支えて  
ほしいです。日常生  
活だけでなく、こう  
いったスポーツを通  
しても交流をしていっ  
てほしいです。

また、参加した生徒  
2人に話を聞いた。

◇夢を叶えるために  
3K伊東直人さん



私は、親戚に身体障  
がい者がいます。将来  
はそのような方々に携

## 誰にでも分かる ポッチャのルール

「ポッチャ (Boocia)」と  
は、障がい者、とりわけ  
脳性麻痺などにより、運  
動能力に障がいがある競



わることのできる、支  
援学校の先生になりた  
いと思いい、今回参加し  
ました。

ポッチャの体験は今  
回が初めてでした。初  
めはシンプルで楽しめ  
そうだなと思ったけど、  
体験してみると意外と  
頭を使い、難しかった  
です。支援学校の生徒  
も楽しんでやっていた  
ので良かったです。こ

技者向けに考案された障  
がい者スポーツ。パハリ  
ンピックの公式種目となっ  
ており、全世界で40カ国  
以上に普及。ポッチャ  
とはイタリア語でポー  
ルの意味」（ウイキペ  
ディアより）

ポッチャは、どれだ  
け多くのボールを、的  
に近づけられるかを競  
う。まず、的となる白  
いボールを投げる。先

れからも障がい者の方  
たちに携わることがで  
きたらいいです。

◇楽しく過ごせた  
1J梶谷結衣さん



さもあって予想以上に力が入り、  
かすりもせず奥に飛ん行ってし  
まいます。2球目は敵チームの  
ボールを弾き飛ばそうとしまし  
たが、味方チームのボールを吹  
き飛ばしてしまいました。

自分のプレーは散々でしたが、  
体験してみても驚いたのは、一見  
単純そうなルールに思えて、実  
は作戦や味方との協調性などが  
求められ、とても奥深く、同時  
に誰でも楽しめるように作られ  
ていることでした。

ゲームなので勝ち負けが付き  
ましたが、終了後、自分を含め、  
誰もが笑顔でした。障がいの有  
無を問わず、皆で楽しめる競技  
で、広く一般に普及して欲しい  
と思いました。

攻が赤ボールを的に近づ  
けるように投げる。その  
次に、後攻が青ボールを  
投げる。そして的から遠  
かった方がまた投げる。  
それを4セット行ない、  
的に近いボールを数え、  
その数で、勝敗を決める。  
少しカーリングに似てい  
ると思ってもらえば良い。  
ルールの分かりやすさ  
と、作戦次第でそれまで  
の結果がひっくりかえる  
面白さとを合わせ持つス  
ポーツである。

(松木)

私は将来介護職に就  
きたいと思っているの  
で、今回参加しました。  
支援学校の生徒と交流  
をして、はじめは少し  
緊張しましたが、ゲー  
ムなどを通して楽しい  
時間を過ごすことがで  
きてよかったです。

(佐藤・高橋・湯淺)

## 編集後記

今回の取材で、初め  
てポッチャを知りまし  
た。障がいのある人、  
ない人に聞わずどん  
な人でも楽しめること  
が魅力だと思いまし  
た。時間が経つにつれ、  
本校の生徒と支援学校  
の生徒との距離が近く  
なっていくのを感じま  
した。

この新聞を通して、  
一人でも多くの人にポッ  
チャを知って欲しいと  
思います。(高橋)

【制作】

宮崎南高校新聞部

2年 兒嶋 佐藤

湯淺 高橋

松木

## これは思ったより奥が深い！ ～兒嶋祥平のポッチャ体験記～



私は実際にポッ  
チャを体験してみ  
ました。

最初の試合は南  
高の私を含む3人  
と支援学校の生徒  
3人のチーム戦で

す。1チーム6球で、1人2球  
ずつを投げます。まずボールを  
持つとずっしりとした重さが手  
に伝わり、見た目よりも意外と  
重いのに驚きました。  
1球目は白いボールのそばを  
狙って投げてみるのですが、重

さもあって予想以上に力が入り、  
かすりもせず奥に飛ん行ってし  
まいます。2球目は敵チームの  
ボールを弾き飛ばそうとしまし  
たが、味方チームのボールを吹  
き飛ばしてしまいました。

自分のプレーは散々でしたが、  
体験してみても驚いたのは、一見  
単純そうなルールに思えて、実  
は作戦や味方との協調性などが  
求められ、とても奥深く、同時  
に誰でも楽しめるように作られ  
ていることでした。

ゲームなので勝ち負けが付き  
ましたが、終了後、自分を含め、  
誰もが笑顔でした。障がいの有  
無を問わず、皆で楽しめる競技  
で、広く一般に普及して欲しい  
と思いました。

## 学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進

### 特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習（障害者アスリートとの交流型）

#### ■ 秩父市教育委員会の取組

- ・アンプティサッカー（足や腕に障害がある人が杖を使って行う競技）をとおしての全校対象の交流
  - ・障害者アスリートは、アンプティサッカー日本代表古城暁博選手を招き、講演と実技を通じた交流
- 対象：秩父市立荒川中学校（通常の学級・特別支援学級全校生徒対象）



講演内容「あきらめない心」  
「義足はコンプレックスでなく、自分を覚えてもらうための武器」と強調。  
できない理由を探すのではなく、諦めずに工夫することの必要性を伝えた。最後は「障害に関心を持ちながら、日常生活を送ってほしい」  
「何事に対してもできないと決めつけず、できる方法を探して工夫することで障害と向き合ってきました」と生徒たちに訴えました。

#### （生徒の感想）

・私は障がいがあるのは少しかわいそうだなと思っていました。でも今日コンプレックスではないと聞いて「きっと障がいもその人の個性で、一つの生き方なんだな」と思いました。足が1本ないくらいでふつうじゃないなんて私は思いません。これから体に気をつけてサッカー頑張ってください。

・僕は義足を付けた方とお会いしたのは今日が初めてでした。始めは義足の姿に衝撃を受けましたが古城さんの僕たちと変わらない軽やかな動きを見ていたら、人間の底力がわかりました。足1本無いはずの古城さんは他の人より大きくたくましく見えました。

・バランスを取るのが難しかった。障害があっても普通の人と変わらずに、いろいろなことができると感じた

# (参考) 北海道教育委員会作成パンフレット

## 世界に羽ばたく 特別支援学校に在籍するアスリート



松田華奈さん

「車いすカーリングは、性別・年齢に関係なく楽しめます。一緒にパラリンピックを目指しませんか?」という松田華奈(まつだ かな)さんは、2014、2015車いすカーリングの日本代表選手です。北海道岩見沢高等養護学校に在籍しており、普段は北見フリーグ스에所属し、活動しています。



戸谷隆之介さん

「個人としてはまだまだ足りないところがあるので、もっとレベルアップしていきたい」という戸谷隆之介(とや りゅうのすけ)さんは、2015ブラインドサッカーの日本代表強化指定選手です。北海道札幌視覚支援学校に在籍しており、普段はナマラ北海道に所属し、活動しています。

### 本資料で紹介した障がい者スポーツに興味のある人は

- **ブラインドサッカー**
  - ナマラ北海道 <https://www.facebook.com/namarrahokkaido/?ref=hl>
- **車いすカーリング**
  - 北海道車いすカーリング協会
  - 旭川キュー斗
  - 帯広チャーカーリングクラブ (Facebookで情報を入手できます)
  - 札幌アイスアップ
  - 北見フリーグス
  - 十勝チャーカーリング
- **車いすバスケットボール**
  - 北海道車椅子バスケットボール連盟 <http://hwbf2012.jimdo.com/>
  - 札幌ノースウィンド(札幌市) <http://sapporo-north-wind.jimdo.com/>
  - 苫小牧WBC(苫小牧市)
  - ハダース副都元町ライオンズWBC(副都元町)
  - 旭川リバーズ(旭川市) <http://asahikawarivers.jimdo.com/>
  - 釧路FREEZZ(釧路市)

### 講師を依頼するには

NPO法人セカンドサポート <http://second-support.org/>

障がい者スポーツのイベント開催や講師の派遣、野球、サッカー、テニス等のトップアスリートの講師・コーチの派遣を行っています。

### 本資料を活用するには

- ◇ 事前・事後学習用「交流及び共同学習を行うに当たって(例)」
- ◇ 交流及び共同学習に関する資料「交流及び共同学習を進めるために」を北海道教育委員会(特別支援教育課)のWebページに掲載しています。

「北海道「東京オリンピック・パラリンピック」プロジェクト」(北のTOPプロジェクト)

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ssa/northtop.htm>

北のTOPプロジェクトでは、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う波及効果を本道の経済活性化や地域振興に結び付けるため、庁内関係部局の連携により、効果的な情報の収集・共有及び関連施策の総合的な推進を図ることとしています。

本資料は、北海道教育委員会(特別支援教育課)のWebページに掲載しています。

<http://www.dokyol.pref.hokkaido.lg.jp/hk/tkk/>

文部科学省委託事業 平成27年度「インクルーシブ教育システム構築モデル事業(学校における交流及び共同学習を通じた障がい者理解(心のバリアフリー)の推進)」

## 障がい者スポーツを通じた相互理解



### ■ 本事業について

障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が共に障がい者スポーツを行うことや、障がい者トップアスリートの体験談を聞くことなど、障がい者スポーツを通じた交流及び共同学習を実施しました。

小・中学校、高等学校の児童生徒には障がいに対する理解啓発を行うこと、特別支援学校の児童生徒には社会参加への意欲を高めることを目的に、ブラインドサッカーや車いすバスケットボール、車いすカーリングに取り組みました。



### ■ 本資料について

障がいの有無にかかわらず、児童生徒が共に障がい者スポーツを楽しめるよう、本事業で取り組んだ障がい者スポーツの特色や交流及び共同学習を実施する際のポイント等について掲載しています。障がい者スポーツを通じた交流及び共同学習を実施する際に、児童生徒の興味・関心を促すよう児童生徒に配布したり、掲示したりして御活用ください。



### ■ 障がい者スポーツ交流会

障がい者スポーツの体験を通して、児童生徒の相互理解やパラリンピックへの興味・関心を高めることを目的とし、北海道札幌視覚支援学校でブラインドサッカー、北海道岩見沢高等養護学校で車いすカーリングに、それぞれ取り組みました。

### ■ 障がい者トップアスリート講演・体験会

障がい者トップアスリートの体験談などの講演会を通して、アスリート一人一人が努力して培った技術や迫力あるプレーに触れ、障がいに対する理解を深めることを目的とし、北海道旭川官学校、北海道帯広官学校でブラインドサッカー、北海道網走養護学校で車いすバスケットボール、北海道真駒内養護学校、北海道函館養護学校、北海道白糠養護学校で車いすカーリングに、それぞれ取り組みました。

平成28年3月  
北海道教育委員会

## 競技名

## 特色

ブラインドサッカーは、フットサルに近いスポーツです。視覚障がいがある人とない人が協力して試合を行います。

車いすバスケットボールは、一般のバスケットボールとほぼ同じルールですが障がいの程度に応じた持ち点があります。

車いすカーリングは、一般のカーリングとほぼ同じルールですが、ストーンを置く行為（スイーピング）がないのが特色です。

## 交流及び共同学習のポイント！

本事業で実施したアンケートでは、障がい者スポーツに取り組む前に、「難しそう」や「不安」と回答した児童生徒が41%、「楽しそう」と回答した児童生徒は40%でした。

交流実施後のアンケートでは、「楽しかった」や「不安だった」と回答した児童生徒が31%に減少し、「楽しかった」と回答した児童生徒は、58%に増加しました。

児童生徒が障がい者スポーツの手軽さや楽しさを感じる環境設定が普及のポイントです。

## 児童生徒の感想

交流及び共同学習を行う際は、アンケートを行うことなどにより、児童生徒が事前と事後の自分の気持ちの変化に気付くようにすることが大切です。

## ブラインドサッカー

■ **ブラインドサッカー特有のルール**  
フィールドプレーヤーはボールを持った相手に向かって行く際に、危険な衝突を避けるため「ポイ！」と声を出して相手に知らせます。

■ **音の出るボール**  
ボールは、フットサルのボールと同じ大きさです。ボールは転がると音が出る特別なボールを使用します。

■ **見える人の協力**  
敵陣ゴールの裏に、「ガイド（コーラー）」と呼ばれる役割の人が立ち、攻めている場面でゴールの位置や距離などを声で伝えます。また、ゴールキーパーは目の見える人が勢め、守りについて声で指示を出します。

■ **ルールのサイト**  
特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会  
[https://www.youtube.com/watch?feature=player\\_embedded&v=\\_NAS8kI6PHk](https://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=_NAS8kI6PHk)



■ **試合の動画**  
ブラインドサッカー世界選手権日本戦ダイジェスト  
[https://www.youtube.com/watch?v=JClEYaxSItY&feature=player\\_embedded](https://www.youtube.com/watch?v=JClEYaxSItY&feature=player_embedded)



### スモールステップの指導

アイマスクをして歩く



輪になりボールを触る



### 共に楽しむ状況づくり

声のする方に蹴る



的を目掛けて蹴る



- 小学生の感想「目が見えていたら簡単なことでも、目が見えないと難しいということが分かった」
- 中学生の感想「目が見えない人に、ボールの位置を伝えるには、3歩前など、具体的に伝えることが大切と感じた」
- 特別支援学校の生徒の感想「ブラインドサッカーは練習すると上手になり、楽しくなる競技だと感じた」  
など

## 車いすバスケットボール

■ **車いすバスケットボール特有のルール**  
トラベリングやダブルドリブル、車いすが転倒した時の対応などについて特有のルールが定められています。

■ **ゴール**  
一般の競技と同じ高さ(3.05m)のゴールを使用します。

■ **障がいの程度に応じた持ち点**  
障がいの程度が重い選手も軽い選手も等しく試合に出場できるようドリブル、パス、シュートなどの動作や体幹のバランス能力に応じて持ち点が設定されています。

■ **競技用車いす**



車いすバスケットボール用の車いすは、フレームや車輪の素材に、アルミやチタンを使用しており、一般の車いすと比較して、丈夫にできています。ハの形の車輪は、操作しやすく、一般の車いすに比べると小回りしやすく調整されています。

■ **ルールのサイト**  
一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟  
<http://www.jwbf.gr.jp/about/rule.php>



■ **試合の動画**  
日本バスケットボール選手権大会北海道地区予選会  
<https://youtu.be/Eq5fp6Tawg>



### スモールステップの指導

競技用車いすに慣れる



ゴールの高さを調整する



### 共に楽しむ状況づくり

友達を引っ張る



ボールを追いかける



- 小学生の感想「車いすを動かすのは難しいのに、特別支援学校の友達は、上手に操作していた」
- 「車いすからのシュートは、下半身が使えないため、思うように投げられなかった」「ゴールが高く感じた」
- 特別支援学校の児童の感想「また、車いすバスケットボールに取り組みでみたい」  
など

## 車いすカーリング

■ **車いすカーリング特有のルール**  
相手チーム選手と交互に投げる点ではカーリングと同じですが、男女混成でチームを構成する点、スイーピングがない点が異なります。

■ **補助道具の使用が可能**  
ストーンは、カーリング同様に手で投げることや専用のデリバリーステッキを使って投げる事が可能です。

■ **得点の数え方**  
ハウス(円)の中心に1番近いストーンを持つチームだけが得点できます。



一番中心に近いのは●、次に近いのは○のため、●チームは1点、○チームは0点。

■ **ルールのサイト**  
公益社団法人 日本カーリング協会  
<http://www.curling.or.jp/about/about004.html>



■ **試合の動画**  
北海道車いすカーリング選手権大会  
<https://youtu.be/GljJ5bRlBw?list=PLTJY6zKfWkKchJLYgbAJJO6zu6ZdpV>



### 環境の調整

距離を近くする



傾斜を利用する



### 共に楽しむ状況づくり

同じ状況下で楽しむ



点数を付けて競う



- 小学生の感想「障がいのある人と初めて一緒に障がい者スポーツを行ったけど、上手に取り組んでいた」
- 高校生の感想「人それぞれに障がいの程度が違うことを理解し、必要な手助けをしながらも一緒に楽しむことが大切であることが分かった」
- 特別支援学校の生徒の感想「初めてで難しかったけど楽しかった」  
など